

## 議会運営委員会県外視察研修報告書

議会運営委員会では、令和元年7月1日～7月3日の3日間、石川県の加賀市議会、滋賀県の彦根市議会、岐阜県の可児市議会を訪問し議会運営と議会改革について視察をしてまいりました。

参加者は、石原孝明副委員長、矢澤功委員、角田憲治委員、渋井康男委員、櫻井秀美委員、及び石岡祐二議長、岡村浩雅副議長並びに事務局職員2名、そして私、永井孝叔であります。

今回の視察先は、議会改革度調査2018ランキング結果において、全国第5位の加賀市議会、第14位の可児市議会、第44位の彦根市議会と、情報公開、住民参加機能強化への取り組みにおいて、高い評価を得ている3市議会を選定いたしました。

基本的な視察事項としては、それぞれ以下について研修してまいりました。

### 【議会改革の取り組みについて】

- ①議会運営全般について
- ②議会基本条例、政治倫理条例等の検証・見直しについて
- ③政策立案、政策提言について
- ④議会報告会について
- ⑤その他特色ある取り組みについて

### 【石川県加賀市】

7月1日は石川県加賀市を訪問いたしました。

加賀市は、日本列島のほぼ中央、日本海に突き出した能登半島の付け根に位置する市であり、人口66,869人、面積305.87k㎡で、歴史と伝統工芸・芸能のまちであるとともに、山代・片山津・山中温泉という名湯温泉郷を有する観光都市であります。

議会改革の取り組みについては、平成23年に策定した議会基本条例を、平成25年度には、議会運営委員会・議会活性化特別委員会で、平成29年度には議会活性化特別委員会において、議会の取り組み実績や全議員からの意見聴取結果を踏まえて、条例の目的が達成されているかどうかについて検証を行っている。平成29年度の2回目の検証では、夜間・休日議会の開催、議員研修の充実、議会の災害時対応について「条例の改正が必要」となった条項があり、今後条例改正に向け検討を進めるとともに、議会として常に市民の意見や社会情勢の変化等を勘案して、議会運営に係る不断の評価と改善を行わなければならないとの検証結果が出されている。

政策立案・提言については、各常任委員会がそれぞれに提言しようとするテーマを協議の上策定し、2年間の委員会任期中に調査研究し政策提言を行うことを目標としている。議会提案による条例として、平成29年に「乾杯条例」「災害対策基本条例」「いじめから子供を守る条例」、平成31年度には「長期欠席議員の報酬減額条例」を制定しており、執行部への提言としては、「防犯カメラの設置に関する提言書」「柴山潟遊歩道整備に関する提言書」「一次産業の振興に関する提言書」等の実績がある。

議会報告会については、2か年で市内21会場（まちづくり単位）を正副議長を除く3班体制（5～6人）で実施している。内容は、各常任委員会から出されテーマについて、手上げ方式により意見交換を行っており、開催後は、各地区の実施結果や各班での検証結果を取りまとめ、議長を通じて各所管委員会へ送付し、今後の委員会の調査研究に生かしている。

また平成27年9月に議会PPDCAサイクル運用規定を策定し、議会や委員会が行う様々な行為についての、進行管理・活動の振り返り・取り組みの評価・次の目標設定といった一連のサイクルにより、活動の見直しを行っている。

その他議会改革の取り組みとしては、子ども議会、女性議会、高校生との意見交換会、議会モニター制度、金沢大学法科大学院との連携協定締結など、様々な先駆的な取り組みを行っていますが、基本条例に基づく様々な施策を着実に実行してきた成果が、議会改革度ランキングの結果であるとの説明と、“日本一の議会を目指して”～改革の取り組み～と赤字で大きく記載された資料の表紙に、加賀市議会の意識の高さが何え強く印象に残りました。



### 【滋賀県彦根市】

7月2日は滋賀県彦根市を訪問いたしました。

彦根市は、琵琶湖東北部に位置する市であり、人口113,679人、面積196.87k㎡で、彦根城を代表とする歴史的・文化的な風情を色濃くとどめる、近畿地方有数の観光都市であります。

議会改革の取り組みについては、平成24年に3,000世帯を対象に実施した「議会に関する市民アンケート」に基づいて、平成26年に議会基本条例を策定している。また同条例第22条において、条例の施行について年1回以上検討を加え、結果に基づいて改正について、議会改革特別委員会において必要な措置を講ずる見直し規定が定められている。また、同特別委員会において、視察対応プロジェクトチームの設置や災害時の対応要領及び、行動マニュアルを策定している。

政策立案・提言については、「彦根城山観覧料徴収条例の一部を改正する条例」「2025年国際博覧会誘致に関する決議案」等の議員提案、「彦根ブランドの開発支援」「まちづくり会社設立の早期検討」「地域おこし協力隊員の増員」等各常任委員会から

の政策提言を行っている。

議会報告会については、従前の教室形式・ワークショップ形式での反省を踏まえ、より分かりやすく開かれた議会を目指して、カフェのような雰囲気の中で行うワールドカフェ方式（カタリバ）や大型商業施設センタープラザでのオープン体験参加型の方式、土日の開催など新たな取り組みを始めている。また「大河ドラマの放送を契機に集客を図るためのプロジェクトチームを庁内に設置」等議会報告会からの政策提言も行っている。

その他議会改革の取り組みとしては、議場開放促進委員会・広報委員会・広聴委員会の広報広聴3組織の正副委員長と正副議長で構成する「広報広聴調整会議」の設置や子ども議会、議場コンサート、中高大生の傍聴、滋賀大学経済学部との連携を実施している。

彦根市議会については、平成31年第1回定例会において、一般会計当初予算が否決されたことが、全国的に大きな話題となりました。概要としては、予算編成において枠配分方式が採用され、大型事業には予算配分されているが、市民に直接影響のある87事業11億7千万円が減額されたことを理由に一般会計当初予算を否決しました。その後、市民生活へ支障を考慮し3月の臨時会で暫定予算を可決していますが、今回の視察を通じて、彦根市議会の毅然とした議会運営と議員各自の意識の高さを痛感いたしました。



### 【岐阜県可児市】

7月3日は岐阜県可児市を訪問いたしました。

可児市は、岐阜県中南部、木曽川の南に位置する市であり、人口102,078人、面積87.57k㎡で、古くは飛騨路及び木曽路への重要な結接点であり、現在は名古屋圏のベッドタウンとして人口が増加し、加茂地域の拠点都市として発展しています。

議会改革の取り組みについては、4つの政策サイクルを設定し、議会の意思決定を行っている。4つのサイクルとは、①議会運営サイクル、②予算決算審査サイクル、③意見聴取・反映サイクル、④若い世代との交流サイクルであり、これらのサイクルと連動した、「民意を反映する政策タイムライン」に基づき議会活動を展開している。

### ①議会運営サイクル

正副議長、委員の任期が1年であるため、役職の交代により議会活動が途切れないよう、課題や提言など引継ぎ事項をまとめ、次の新たな議会に申し送りしている。

### ②予算決算審査サイクル

次年度予算につなげるために、PDCA サイクルの中で決算審査を最も重要と位置づけ、年間6回実施している。議会報告会や地域課題懇談会で出た意見等も反映し、全会一致提言のみ市長に提出している。

### ③意見聴取・反映サイクル

議会報告会、地域課題懇談会、各種団体との懇談会で出た意見等を集約して、一般質問、委員会の所管事務調査、予算決算審議に生かし政策提言を策定している。常任委員会の代表質問の導入にもつながっている。

### ④若い世代との交流サイクル

高校生議会、地域課題懇談会、ママさん議会など、年間を通じて若い世代との交流を図っている。

政策立案・提言については、市民からの「意見聴取・反映サイクル」に基づき委員会（分科会）において調査研究、自由討議を行い、附帯や提言内容を決定する。

事例としては、「決算審査による予算編成への提言」「子どものいじめ防止に関する条例制定の付帯決議」「建設中の駅前子育て拠点施設について」及び「空き家等の適正管理に関する条例（案）の提案」があります。

議会報告会については、議会基本条例に基づき春の予算議会後と秋の決算議会後の年2回、10か所の地区センターにおいて開催している。グループ形式で、議会だよりを活用して決算・予算の報告とテーマを決めての意見交換を行っている。

その他議会改革の取り組みとしては、名城大学との連携、高校生議会（2年に1度模擬投票）、ママさん議会、地域課題懇談会、議場コンサート等を実施している

可児市は、世界一のバラ園があり、バラのまちとしてPRするため、6月定例会は議場にバラを飾ってバラ議会として開催している。こうした取り組みは、【アイデア（気づき）・インスピレーション（ひらめき）・アクティビティ（行動力）・コミュニケーション（相互理解）・インプルメンテーション（実施）・レギュレーション（規定）】を可児市議会の基本姿勢としており、丁寧な議会審議による熟議型議会を目指しているとのことでありました。

## 岐阜県可児市



以上ご報告いたします。